

事業開始前の様子

I 技術移譲（爆弾のこぎりカット法）



弾底(左端)が衝撃により変形し、弾底信管を抜くことが困難な爆弾。爆破処分をすることができない場所では「のこぎりカット法」による処分が有効であるが、ラオスでは行われていない方法であるため、最終的な処分方法の一つとして技術移譲し、UXO Lao 全体に普及、定着を図る。

アッタプー県における不発弾処理事業間に実施した、のこぎりカット法安全性確認試験の様子



Ⅱ 訓練センター建て替え



訓練センター全景。築30年が経過しており、老朽化が進んでいる。難民の収容施設として建設された建物を利用しているため、教育施設としては不具合な状態である。



教場は3教室あるが、全体での収容人数は最大60名程度で、訓練生を増やすことが難しい状態である。



学生数が多い時は、3人用の机を4人で使用しているため、必要なスペースを取ることが出来ない。



機材、教材等の収納スペースが不足しているため、収納できない物品については教場の隅に置かれている。



教場をはじめ、宿舍や本部等の床や壁、天井の破損が多々見られる。